

温暖地における栽培に適した 無エルシン酸のナタネ新品種「ななしきぶ」

東北農業研究センターの私たちの研究室は、わが国唯一のナタネ育種担当として、全国のそれぞれの地域に適したナタネの育成を目指して品種改良を行っています。

ところで、ナタネ油に含まれるエルシン酸という脂肪酸は、健康に害を与えるおそれがあります。そのため、日本においても東北地方に適した無エルシン酸品種が育成されてきましたが、温暖な西日本に適した品種はなく、西日本に適した無エルシン酸のナタネの育成が必要とされてきました。



写真1: 「ななしきぶ」の開花状況

《「ななしきぶ」の生い立ち》

温暖地向けの無エルシン酸、多収品種の育成を目的として、平成4年春に無エルシン酸系統の「盛脂148」を母とし、エルシン酸を含むが、温暖地で優れた特性を示す「オオミナタネ」を父として、人工交配を行いました。以降、無エルシン酸で、温暖地での栽培に適した特性（熟期が早く、草丈が低く、病気に強いなど）を持つ系統の選抜を続け、平成14年に育成されたのが「ななしきぶ」です。

《「ななしきぶ」の特性》

「ななしきぶ」は西日本における標準的な品種である「オオミナタネ」と比べて、次のような特徴があります。草丈は「オオミナタネ」より長く、耐倒伏性は「オオミナタネ」よ

作物機能開発部 資源作物育種研究室

加藤晶子

KATO, Masako



りやや強いです。開花期は「オオミナタネ」よりやや遅く、成熟期は同時期です。寒雪害に対しては「オオミナタネ」より強いです。菌核病抵抗性は「オオミナタネ」並の強さです。収量性は「オオミナタネ」より優り多収です（図1）。種子に含まれる油含量は「オオミナタネ」よりやや少なく、油中のエルシン酸は「オオミナタネ」には約45%含まれる対し、「ななしきぶ」は0%で、無エルシン酸品種となっています。



写真2: 「ななしきぶ」の草姿
左が「ななしきぶ」、右が「オオミナタネ」

《栽培予定県と菜の花プロジェクト》

「ななしきぶ」は滋賀県で推奨品種として採用される予定です。滋賀県は貴重な水資源である琵琶湖や豊かな自然を健全な姿で次の世代へ引き継いでいくため、環境に優しい農林水産業を構築することを目指しています。この施策の一環として、平成11年度より「湖国菜の花エコ・プロジェクト」を展開し、今後は、ナタネ栽培を積極的に推進していくことが予定されています。このプロジェクトは、菜の花を植え、ナタネを収穫して搾油し、ナタネ油は料理や学校給食に使い、廃食油を回収し、石けんや軽油代替燃料（バイオディーゼル）にリサイクルして利用し、さらに、搾油時に出た油かすは肥料として利用しようとするものです。すなわち、ナタネを栽培することによって、地域にある資源をエネルギーに変えて利用し、その資源やエネルギーを地域内で再利用する、資源循環型の地域づくりをめざしたプロジェクトです。滋賀県で生まれた「菜の花プロジェクト」は現在全国に広がりつつありますが、その中で「ななしきぶ」は西日本において重要な役割を担うことが期待されます。

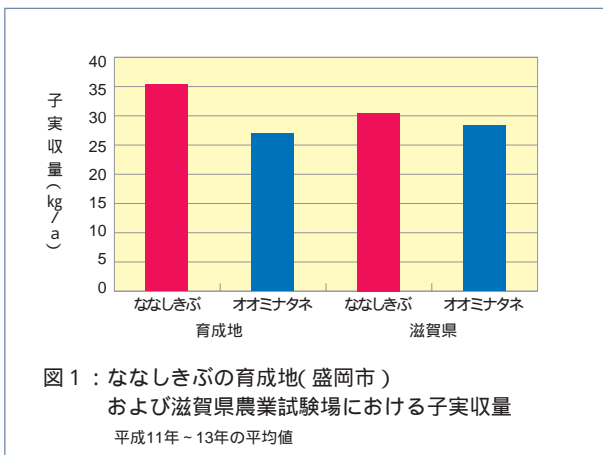


図1: ななしきぶの育成地(盛岡市)および滋賀県農業試験場における子実収量
平成11年～13年の平均値